

Title	臨床哲学 第18号 臨床哲学研究会の記録
Author(s)	
Citation	臨床哲学. 2016, 18, p. 206-212
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/60611
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

臨床哲学研究会の記録

〈研究会〉

第1回 (1995.10.25)

鷺田清一 (大阪大学教授・倫理学): 《苦しむ者》(homo patiens) としての人間

第2回 (1995.11.30)

中岡成文 (大阪大学教授・倫理学): 臨床哲学はどのようなフィールドで働けるか

入江幸男 (大阪大学助教授・哲学): ボランティア・ネットワークと新しい〈人権〉概念の可能性

第3回 (1996.4.25)

フリー・ディスカッション

第4回 (1996.5.17)

川本隆史 (跡見学園女子大学教授・倫理学): 関東大震災と日本の倫理学 四つの症例研究

第5回 (1996.5.30)

池川清子 (北海道医療大学教授・看護学): 看護 生きられる世界からの挑戦

第6回 (1996.6.20)

堀一人 (大阪府立刀根山高校教諭): 「おかわりクラブ」の実験から職業選択から自己実現への道筋

第7回 (1996.9.26)

鷺田清一・中岡成文: 哲学臨床の可能性

第8回 (1996.10.17)

小松和彦 (大阪大学教授・文化人類学): 「癒し」の民俗学的研究

第9回 (1997.1.23)

荒木浩 (大阪大学助教授・国文学): 「心」の分節 中世日本文学における〈書くこと〉と〈癒し〉

第10回 (1997.7.3)

鷺田清一: 臨床哲学事始め

山口修 (大阪大学教授・音楽学): 音と身

第11回 (1997.9.25) 「看護の現場から」

伊藤悠子 (芦原病院看護婦):

Feverphobia の克服に向けて —Nightingale 看護論に依拠した小児科外来における実践から

西川勝 (PL 病院看護師): 臨床看護の現場から

第12回 (1997.11.27)

小林愛 (奈良市社会福祉協議会・音楽療法推進室): 音楽療法をめぐる

第 13 回 (1998.7.2)

パネルディスカッション「学校を考える：『不登校』という現象を通して」

提題者：栗田隆子（臨床哲学・博士前期課程）：不登校を語ること——不登校の「私」性

寺田俊郎（臨床哲学・博士前期課程）：誰が「なぜ学校に来るのか？」に答えられるか

畑英里（臨床哲学・研究生）：「学校」という踏み絵

第 14 回 (1998.9.24)

山田 潤（大阪府立今宮工業高校定時制教諭）：

子どもの現在 学校の現在 —増え続ける不登校の間いかけるもの

第 15 回 (1998.12.12)

パネルディスカッション「学校の現在と不在 哲学の現場から〈不登校〉現象を考える」

提題者：栗田隆子（臨床哲学・博士前期課程）

寺田俊郎（臨床哲学・博士前期課程）

畑英里（臨床哲学・研究生）

第 16 回 (1999.4.17)

浜田寿美男（花園大学教授・発達心理学）：生きるかたちを伝える場としての学校

第 17 回 (2000.2.19)「哲学教育の可能性と不可能性 高校の授業から」

堀一人（刀根山高校教員）

大塚賢司（同志社高校教員）

第 18 回 (2000.7.1)

中島義道（電気通信大学教授）：哲学の教育 対話のある社会へ

第 19 回 (2001.7.14)

西村ユミ（日本赤十字看護大学）：臨床のいとなみへのまなざし

武田保江（臨床哲学・博士課程修了）：「死体と出会いました」エピソードをもとに

第 20 回 (2009.12.9)「教材から哲学と教育を考える」

本間直樹（大阪大学 / 臨床哲学）：きく、はなす、かんがえる：西宮市香榎園小学校の子どもたちとともに

武田朋士（播磨学園）：少年院における対話ワークショップの試み

菊地建至（関西大学非常勤講師）：大学の哲学・倫理学の「教材」の多様さと共通性：「教職」科目を中心に

第 21 回 (2010.2.20) 第 3 回哲学教育合同研究会「教育」

山田圭一（中央学院大学非常勤講師）、土屋陽介（日本大学）、村瀬智之（千葉大学）：

きく、はなす、かんがえる：西宮市香榎園小学校の子どもたちとともに

豊田光世（東京工業大学）：「こどもの哲学と環境倫理教育」

第 22 回 (2010.7.24) 「ネオ・ソクラテック・ダイアログの起源と実践」

寺田俊郎 (上智大学) : NSD の起源—ソクラテスでもネルソンでもなく」

堀江剛 (広島大学) : NSD の『現場反省的』活用を考える : 国際共同研究プロジェクト「遺伝対話」の経験から

會澤久仁子 (熊本大学) : NSD による医療の原則と価値の相互理解

本間直樹 (大阪大学) : 対話進行役養成における NSD の効能

第 23 回 (2010.7.24) 「マイナスからの哲学・倫理学教育」

菊地建至 (関西大学ほか非常勤講師) :

「日常を哲学すること」をはじめめる・つづけるきっかけになる映像活用授業—実演を中心に

田村公江 (龍谷大学) : 大学生への学習の支援のあり方とその困難—専任教員としての経験から

第 24 回 (2011.4.9) 「『ドキュメント臨床哲学』合評会 臨床哲学のこれまでとこれから」

評者 : 奥田太郎 (南山大学 准教授)

菊地建至 (関西大学 非常勤講師)

三浦隆宏 (摂南大学 非常勤講師)

森本誠一 (大阪大学大学院文学研究科 院生)

司会 : 浜渦辰二 (大阪大学大学院文学研究科 教授)

個人発表 :

大北全俊 (大阪大学大学院文学研究科 助教) : HIV 感染症をめぐる臨床哲学的考察

第 25 回 (2011.7.9) シンポジウム「高校での臨床哲学の試み—過去・現在・未来—」

會澤久仁子 (熊本大学 COE リサーチ・アソシエイト)

紀平知樹 (兵庫医療大学 准教授)

藤本啓子 (須磨友が丘高校 非常勤講師)

中川雅道 / 洛星高校プロジェクト

報告 : 樫本直樹 (大阪大学 非常勤職員)

司会 : 本間直樹 (大阪大学 准教授)

個人発表

中西チヨキ (大阪大学 博士課程後期) : 病と看護と語ること聴くこと

第 26 回 (2011.10.22)

辻明典 (大阪大学大学院文学研究科 院生) ・ 本間直樹 (大阪大学大学院文学研究科 准教授) :

南相馬と臨床哲学

東暁雄 (大阪大学大学院文学研究科 院生) : 手続的正義と規範としての法

森本誠一 (大阪大学大学院文学研究科 院生) :

市民参加型社会へ向けた公衆関与のあり方について—英国ビーコンズ・プロジェクトの取り組みを手がかりに

第 27 回 (2012.1.14) : シンポジウム「高齢社会におけるケアを考える」

浜渦辰二 (大阪大学大学院文学研究科 教授)

藤本啓子 (患者のウェル・リビングを考える会 代表)

林道也 (<ケア> を考える会代表)

第 28 回 (2012.4.8)

正置友子 (大阪大学大学院文学研究科博士課程後期) : 子どもたちと絵本の扉をひらく

栗田隆子 (ライター) : 怒りと呪いの共同体—女の貧困を考える

西川勝 (大阪大学 CSCD 特任教授) : 貝原益軒『養生訓』から考える

第 29 回 (2012.7.8) : 合評会 : 中岡成文『試練と成熟—自己変容の哲学—』(大阪大学出版会、2012)

評者 : 村上靖彦 (大阪大学大学院人間科学研究科 准教授)

田中俊英 (NPO 法人淡路ブラッツ代表)

文元基宝 (大阪大学大学院文学研究科 博士課程前期)

個人発表

紀平知樹 (兵庫医療大学共通教育センター准教授) : 待機する社会としての定常型社会

第 30 回 (2012.10.21)

個人発表

徐静文 (大阪大学 博士後期課程) : 中国におけるターミナルケアの歴史と現在

シンポジウム

山崎竜二 ((株) 国際電気通信基礎技術 研究所研究員) :

遠隔操作型ロボットを介したコミュニケーションの可能性——石川県宮竹小学校の授業を通して考える」

第 31 回 (2013.1.20)

個人発表

川崎唯史 (大阪大学 博士前期課程) : 安全から安心へ——創造的な対話に向かって

中西チヨキ (大阪大学 博士後期課程) : 苦しみと感謝のなかで——病いの子どもを介護する母の言葉から

第 32 回 (2013.6.16)

個人発表

金和永 (大阪大学 博士前期課程) : 「アイデンティティ」と、悼みの分配

辻村修一 (早稲田摂陵教員) :

哲学的な思考を養成する「総合的な学習」の実践に向けて——文科省が規定するキャリア概念に対する懐疑を前提に

第 33 回 (2013.12.7)

共同発表

稲原美苗 (大阪大学大学院文学研究科 助教)

文元基宝 (文元歯科医院 院長) :

歯科医療の中の当事者研究—専門知と当事者の知をつないで—
辻明典 (福島県南相馬市立原町第二中学校 社会科教員) : 葛藤について

第 34 回研究会 (2014.3.23) 「中岡成文教授を送る会」

岡辺裕美 (P&G)
田中朋弘 (熊本大学)
西村高宏 (東北文化学園大学)
鷺田清一 (大谷大学)

第 35 回研究会 (2014.9.5) 「「アビリティ・スタディーズ」を開始する」

発表者
池田喬 (明治大学文学部専任講師) : アビリティ・スタディーズを開始する——プロジェクトの狙い
稲原美苗 (大阪大学大学院文学研究科助教) :
健常者のマトリックス —— 認識可能なアビリティと認識不能なアビリティ
青木健太 (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程) : 能力の器 —— リビングウィルで考える能力
川崎唯史 (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程) : 体質と能力
浦野茂 (三重県立看護大学教授) :
「能力がある」とはどのようなことか? —— エスノメソドロジーの視点から
飯島和樹 (日本学術振興会特別研究員 (PD) 玉川大学) : 能力と認知とその帰結
中岡成文 (元大阪大学大学院文学研究科教授) : アビリティの関係性についての一考察
司会
浜渦辰二 (大阪大学大学院文学研究科 教授)

第 36 回研究会 (2015.2.7)

発表者
大北全俊 (東北大学大学院医学系研究科助教) : HIV 感染症と臨床哲学
辻明典 (福島県南相馬市立原町第二中学校社会科教員) : 原発禍の臨床哲学
西村高宏 (東北文化学園大学保健福祉学科教授) :
瓦礫のなか、哲学のすみかはどこに? ～被災地における「哲学的対話実践」の試み～
司会
浜渦辰二 (大阪大学大学院文学研究科 教授)

第 37 回研究会 (2015.7.25) 合評会「中岡成文『養生訓問答』(ぶねうま舎、2015)」

評者 : 河村厚 (関西大学法学部教授)
フランツィスカ・カッシュ (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程)
川崎唯史 (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程)
個人発表者
鈴木徑一郎 (大阪大学大学院博士後期課程) : 日々のメンテナンス——相続者として、ビギナーとして

第 38 回研究会 (2015.11.21)

個人発表者

横田恵子 (神戸女学院大学文学部 総合文化学科):

日本の HIV カウンセリングが内包する権力と政治性: 1990 年代の公刊論文の分析を中心に

服部佐和子 (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程、国立循環器病研究センター・医学倫理研究室 非常勤研究員): 自己生成のプロセスとしてのインフォームド・コンセントを考える

正置友子 (大阪大学大学院博士後期課程):

幼い子どもたち (0 歳~3 歳) にとって、絵本とはなにかーメルロ=ポンティとともに考えるー

村山晴香 (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程): ヴィゴツキーの思想からみたアクティブラーニング

第 39 回研究会 (2016.7.30)

個人発表者

高原耕平 (大阪大学大学院博士後期課程): 小さなもの

大北全俊 (東北大学大学院 医学系研究科): 「うっかりの倫理」 試論

青木健太 (大阪大学大学院博士後期課程): 話すことと聞くことによる発見

中川雅道 (神戸大学附属中等教育学校): ポスターの変化と成長の原理

《公開シンポジウム》

第1回(1996.12.13)「哲学における〈現場〉」

熊野純彦(東北大学助教授・倫理学): 死と所有をめぐって〈臨床哲学〉への途上で

古東哲明(広島大学教授・哲学): 臨床の現場 内と外との交差点

池田清彦(山梨大学教授・生物学): おまえのやっているのは哲学だ / おまえには哲学がない

第2回(1997.2.21)「ケアの哲学的問題」

川本隆史(東北大学教授・倫理学): 生きにくさのケア—フェミニストセラピーを手がかりに

清水哲郎(東北大学教授・哲学): 緩和医療の現場—QOLと方針決定のプロセス

コメンテーター: 中野敏男(東京外国語大学教授・社会学)

第3回(1998.2.20)

第一部 テーマ「女性におけるセルフをめぐって」

北川東子(東京大学): 孤立コンプレックス

吉澤夏子(日本女子大学): 親密な関係性

コメンテーター: 藤野寛(高崎経済大学)

コーディネーター: 霜田求(大阪大学)

第二部 テーマ「国際結婚」

山口一郎(東洋大学): ドイツと日本のあいだで日常としての文化差

嘉本伊都子(国際日本文化研究センター):

国際結婚とネーション・ビルディング

コメンテーター: 浜野研三(名古屋工業大学)

コメンテーター: 熊野純彦(東北大学)

コーディネーター: 田中朋弘(琉球大学)